

平成30年度大学院修士課程一般入学試験（第I期）問題

研究科名	科目名
文学研究科 国際言語教育専攻	日本語 (No. 1)

問題1と問題2の両方に答えなさい。

問題1 次の本文を読んで、あとの問に答えなさい。

映像を編集するとき、音と映像を分けて編集することがある。たとえばあなたの学校の数学の授業の様子を、テレビ局が撮りにきた **A**。後日、その番組が放送される。学校の簡単な紹介が終わったあと、教壇で先生が、黒板に連立方程式を板書しながら一生懸命にしゃべっているカットが映る。その先生のカットのあとに、先生の話聞くあなたたちのカットがインサート（挿入）される。映像はあなたたちの顔だけど、先生の話は続いている。カットが変わるときにも、先生の話が途切れたりはしない。 **B** この場合、音は音だけでずっと切れ目を入れずに使っているからだ。この音をベースにして、教壇に立つ先生の映像と、音を消したあなたたちの表情の映像を交互につなぐ。これをカットバックという。

このとき、あなたたちのどんな表情を使うかは、その映像を編集する人の判断に任せられる。一生懸命にうなずきながら聞いている映像を使えば、とても熱心な先生と、真面目に授業を受ける生徒たちというシーンになる。でもあなたがたまたまあくびをかみ殺していたり、隣の席の誰かが一瞬だけ窓の外を眺めているような映像を使えば、先生の熱心さが空回りしている¹授業というシーンになる。

番組を注意して見れば、こんなシーンはいくらでもある²。そしてそんな場合、場の雰囲気はどう再現するかは、編集者の思いのままなのだ。一生懸命に先生の話聞いているあなたと、あくびをかみ殺しているあなたは、どちらも授業中のあなただ。どちらも嘘³ではない³。でもどちらをインサートに使うかで、授業の印象は大きく変わる。いや、授業だけじゃない。あなた⁴への印象も、どちらを使うかでまったく変わる。

映像はこのように「作られる」⁵ものだということを、まずあなた⁶には知ってほしい。たしかに事実の断片を寄せ集めてはいるけれど、できあがったものは事実とは微妙に違う。メディアが嘘つきであると言っているわけじゃない^C。もっと正確に言えば、メディアは最初から嘘だと思っておいたほうがいい^D。だって授業中にテレビカメラが教室にあれば、誰だって緊張する。誰だって普段とは違う言動をする。カメラが撮れるものは、カメラの存在によって変わった現実だ。ありのままではない。盗み撮りや監視カメラの映像は別にして、カメラはそもそも **E**。

その嘘を集めて、記者やディレクターが現場で感じ取った真実を追究する。それがメディアのあるべき姿だと僕は思っている。だからメディアをすべて信じこんでしまうことも問題だけど、すべてを嘘なのだと否定してしまうことも少し違う。ほとんどの記者やディレクターは、そんな嘘を集めながら、真実を描こうと懸命に頑張っている。

（設問の関係上、本文を改めたところがある。）

平成30年度大学院修士課程一般入学試験（第I期）問題

研究科名	科目名
文学研究科 国際言語教育専攻	日本語 (No.2)

問1 、 に適切な語を書き入れなさい。

問2 この文章における第2段落の役割を解説したものとして適切なものを次の1~4の中から一つ選びなさい。

- 1) 映像の編集は、中心人物の声を切らないようにすることが大切だと示している。
- 2) 映像の編集は、嘘をつなぎあわせて作るという結論を導くための部分である。
- 3) 映像の編集は、音と映像を分けて編集しなければならないと結論づけている。
- 4) 映像は、編集のやり方によって、その印象が大きく違ってくることを説明している。

問3 1 「先生の熱心さが空回りしている」とはどういう意味か、説明しなさい。

問4 2 「こんなシーンはいくらでもある」を説明した文として、適切なものを次の1~4の中から一つ選びなさい。

- 1) 授業中に生徒があくびをするシーンなどありふれたものである。
- 2) 先生が一生懸命に授業をしても、空回りすることはよくあることだ。
- 3) カットバック手法を使って編集された画像は珍しくない。
- 4) 2種類の映像を交互につなぐことは、編集技術の基本である。

問5 3 「どちらも嘘ではない」というのは、どういう意味か。

問6 4 と6の「あなた」はどう違うか説明しなさい。

問7 5 「作られる」に「 」がつけられている理由を説明しなさい。

問8 なぜ筆者は CとDのような言い方をしているのかを説明しなさい。

問9 に入れるのに、適切なものを次の1~4の中から一つ選びなさい。

- 1) ありのままなど撮れないのだ
- 2) ありのまましか取れないものなのだ
- 3) 作為など入りようがないものなのだ
- 4) 現実をそのまま写し出すものなのだ

問10 筆者が考える「事実」と「真実」の関係をわかりやすく説明しなさい。

平成30年度大学院修士課程一般入学試験（第I期）問題

研究科名	科目名
文学研究科 国際言語教育専攻	日本語 (No. 3)

問題2 次の本文を読んで、あとの問に答えなさい。

次の条件文では、条件節（「明日晴れば」）と帰結節（「花を見に行きますよ」）で、それぞれデキゴト〔明日晴れる〕〔花を見に行く〕が語られている。

(1) 明日晴れば花見に行きますよ。

次もやはり同様で、条件節〔君が帰るなら〕「彼の下宿に行ったら」でデキゴト〔君が帰る〕〔彼の下宿に行く〕が語られ、帰結節「僕も帰ろうかな」「くわしい情報がわかるかもね」で、デキゴト〔僕も帰る〕〔くわしい情報がわかる〕が語られている。

(2) 君が帰るなら僕も帰ろうかな。

(3) 彼の下宿に行ったらくわしい情報がわかるかもね。

いろいろ例外はあるが、条件文ではこのように、条件節と帰結節で、それぞれデキゴトが語られるというのが原則である。ここでは、「彼の下宿に行ったら」のように、条件節に「たら」が現れている条件文（「たら」条件文）を観察してみよう。

次の二つの文を比べると、最初の文と比べて二番目の文はあまり自然でない。

(4) 彼の下宿の天井は低い。

(5) 彼の下宿に行ったら天井が低い。

これは、(4) とちがって、(5) が「たら」条件文で、いま述べた条件文の原則に違反しているからである。条件節「彼の下宿に行ったら」ではデキゴト〔彼の下宿に行く〕が語られているが、帰結節「天井が低い」で語られているのはただの状態であり、デキゴトではない。

ところで、いま挙げた条件文(5)を過去形にしてみよう。

(6) 彼の下宿に行ったら天井が低かった。

途端に、彼の下宿を訪ねて天井の低さを感じたという、かなり自然な文ができあがるではないか。なぜ過去形にすると自然さが増すのか？それは、体験の文法は過去形で起動しやすいからである。多くの体験は語られる時にはすでに過去になっているため、体験は過去形で語られやすいからである。

(6)の文の場合、過去形の帰結節「天井が低かった」で語られているのは、ただの状態ではない。体験された一つのデキゴトである。条件文の原則「条件節でも帰結節でもそれぞれデキゴトが語られねばならない」に適合しており、問題はないということになる。

ただし、帰結節を過去形にしさえすれば、どんな条件文でも自然になる、というわけではない。たとえば、次の文は不自然である。

(7) ぼんやり寝ていたら彼の下宿は天井が低かった。

これは、条件節のデキゴト〔話し手がぼんやり寝ている〕と、帰結節のデキゴト〔彼の下宿は天井が低い〕とが、何ら関連していないせいである。

また、次の文は自然だが、これは最後の「天井が低かった」を「天井が低い」にしてもやはり自然である。つまり過去形にすることで初めて自然になる文ではない。

(8) 彼女の下宿と比べたら彼の下宿は天井が低かった。

平成30年度大学院修士課程一般入学試験（第I期）問題

研究科名	科目名
文学研究科 国際言語教育専攻	日本語 (No.4)

過去形にすると自然になる条件文とは、次のようなものである。

(9) 見合い写真を見たら昔の恋人だった。

(10) ドアを開けたら田中さんがいた。

(11) 原稿を調べたら間違いがあった。

これらの条件節では「見合い写真はどんな様子なのか（どんな相手なのか）探索する」「ドアの向こうはどんな様子なのか（誰がいるのか）探索する」「原稿はどんな具合なのか探索する」といった探索があからさまに語られており、帰結節で述べられているのは、その探索の結果である。

ワクワク型の体験として、帰結の状態「昔の恋人だった」「田中さんがいた」「間違いがあった」がデキゴトとしてとらえられ、条件文の原則に適合するのは、そのためである。

条件文には「条件節と帰結節で、それぞれデキゴトが語られるのが原則」という特徴がある。帰結節がただの状態しか表さない「たら」条件文は、この原則に適合していないため、ふつう不自然である。

だが、二つの要件がともに満たされた時にかぎり、この不自然さは解消する。一つの要件は、帰結節が過去形になり、つまりいかにも体験談らしくなることである。だが、「たら」条件文が自然になるには、もう一つの要件も満たされなければならない。それは条件節が探索をあからさまに語るということである。

(設問の関係上、本文を改めたところがある。)

定延利之『煩惱の文法』ちくま新書 2008年より

問1 例文(5)は、不自然な文だとされるが、その理由を本文の説明に基づき解説しなさい。

さらに、(5)を自然な「たら」条件文にするための規則を、日本語学習者にも理解できるよう分かりやすく解説しなさい。

問2 次の文は日本語として不自然な文だが、その理由を本文で述べられている「たら」条件文に課される二つの要件に基づき説明しなさい。

お風呂に入ったら、晩御飯を食べた。